

## Excel を活用しよう④

# 基本的な グラフの活用

働き方改革は経理業務にも求められています。業務手順を見直し効率化を図るためのヒントを紹介します。今回は、Excel のピボットテーブルを解説します。

- ⑦ クラウドを活用しよう② ～クラウド会計ソフトを利用する～
- ⑧ Excel を活用しよう① ～データ集計に役立つ関数～
- ⑨ Excel を活用しよう② ～これだけはマスターしたい関数～
- ⑩ Excel を活用しよう③ ～ピボットテーブルで集計を効率化～
- ⑪ Excel を活用しよう④ ～基本的なグラフの活用～
- ⑫ RPA を活用しよう

### グラフの 基本用語

Excel では、データを用意するだけでグラフを素早く作成できます。視覚的に訴えるグラフを活用できれば、経営者や利害関係者に対する説得力が増しますし、異常値も発見しやすくなります。

まずは、Excel グラフでの基本的な用語を押さえておきましょう。

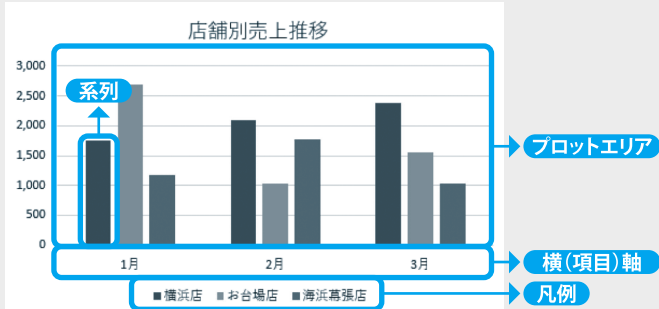
- ① **プロットエリア**……棒グラフの棒や折れ線グラフの折れ線など、グラフ本体が表示される領域のこと（図表1）。
- ② **系列**……グラフに表示されるデータの集合を指す。図表1であれば、〇〇店の〇月分売上が1つの系列ということになる。また、系列を区別するための名称を系列名と呼び、通常は元の表の見出しが系列名となる。

- ③ **横（項目）軸**……棒グラフや折れ線グラフなどのプロットエリアの下端から表示される項目名を配置した軸。図表1では、各月（1月～3月）が該当。
- ④ **凡例**……系列を示す色と系列名の組み合わせを指す。

### 具体的な 活用例

- (1) **棒グラフで3期分の売上比較表をつくる**
  - ① **3期分の売上データを準備**  
まずは、3期分の売上データを準備します（図表2）。  
項目は、「年月日」「売上」のシンプルなもので十分です。会計ソフトからデータをダウンロードする、または転記して作成しましょう。
  - ② **横（項目）軸のデータを作成**  
横軸には各月を表示したいので、別途横（項目）軸のデータを別シートにつくります（図表2）。
  - ③ **棒グラフを作成**  
売上データを選択した状態で、Alt キー＋F1 キーで瞬時に棒グラフが作成できます。  
ただし、そのまま作成すると3年分の売上がすべて横軸に並んでしまうため、調整していきます。
- ④ **データを選択**  
グラフを選択している状態で、右クリック↓データ選択を選ぶと、「データソースの選択」という画面が出てきます。  
グラフデータの範囲が先ほど作成した3期分の売上データすべてを選択しているため、1期目の売上データの範囲に選択しなおします。2期目、3期目のデータも選択して追加し、それぞれ系列名を「2017」「2018」「2019」（比較したい年度）とします。  
また、横（項目）軸ラベルについては、編集ボタンより、先ほど作成した各月の範囲を選択します（図表3）。
- ⑤ **凡例・データテーブルを追加**  
このままだと、それぞれの棒グラフがいつの年度分なのかかわからないため、どの年度がどの色の棒グラフに対応するかを示す凡例を追加します。  
グラフを選択すると横にプラスマークが出るので、クリック↓凡例にチェックを入れると凡例を表示できます。凡例はグラフエリアの上下左右、自由に配置可能です。  
なお、元となった数値をグラフ内に表示したい場合には、データテーブルにチェックを入れると、

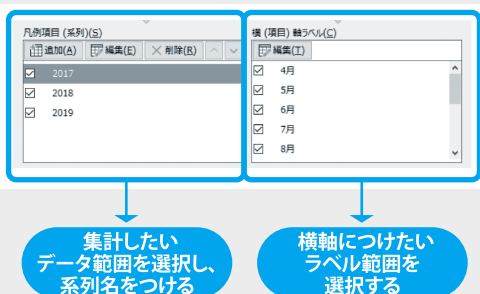
図表1 グラフの基本用語



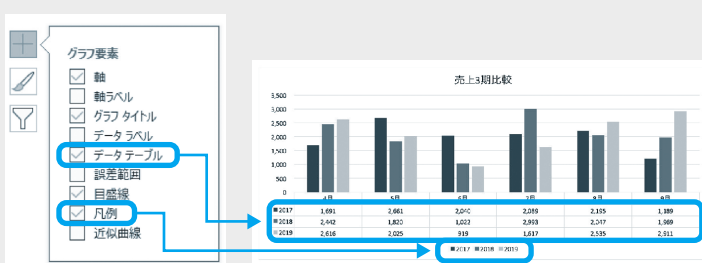
図表2 データの準備



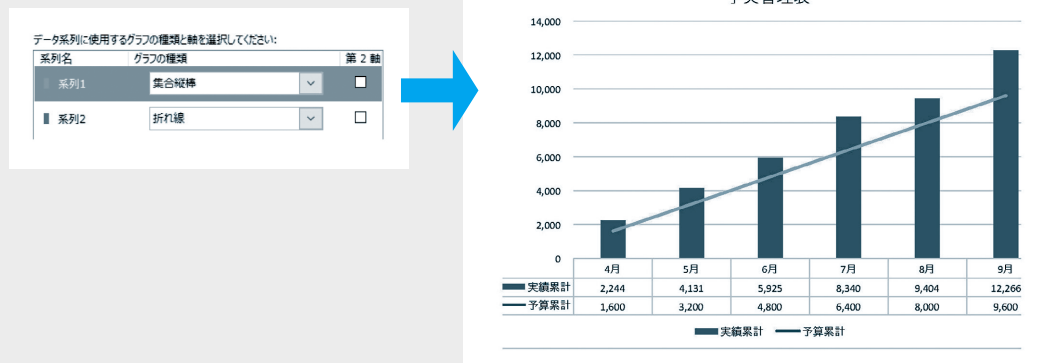
図表3 データを選択



図表4 凡例・データテーブルの追加



図表5 複合グラフの作成



棒グラフの下に数値が表示されます(図表4)。実際の数値を確認しながら説明する際に便利です。

## (2) 棒グラフと折れ線グラフで予実管理をする

予実管理(予算と実績の比較管理をすること)も経理で関わる頻度の高い業務です。たとえば、年度の売上予算(目標)があり、現時点でこれを達成できているかといった分析です。売上実績、売上予算の異なる比較数値を使うため、棒グラフと折れ線グラフを組み合わせる方法が有効です。

### ① データを準備する

まずは、グラフに利用するデータを準備します。今回使うのは、売上実績と売上予算の累計です。

### ② 複合グラフを作成する

グラフに使うデータ(実績累計と予算累計)を選択した状態で、複合グラフの挿入↓「ユーザー設定の複合グラフを作成する」を選択します。系列ごとのグラフの種類を選択する画面が出てくるので、実績累計(系列1)には集合縦棒、予算累計(系列2)には折れ線を選びます。OKをクリックすると実績累計は棒グラフ、予算累計は折れ線グラフの複合グラフがで上がります(図表5)。

必要に応じて、横(項目)軸と凡例、データテーブルについて設定します。

とむらりようこ 税理士。ITを駆使して経営者にスピーディーに情報を提供する。インターネットビジネスや、仮想通貨取引など新しい分野の税務対応にも積極的に取り組む。